

# 岡村ゼミナール中学受験コース Q&A

中学受験について、保護者より寄せられる様々な問い合わせのうち、よく尋ねられることについてまとめています。是非、参考にしてください。

回答者：中学受験指導部責任者（指導歴 40年）

Q1：中学受験の学習はいつから始めればよいでしょう。

受験のための学習は小4からが標準だと言われていますが、そんなことはありません。

大抵の中学受験専門の学習塾では、都心の超難関校の合格指導を元にカリキュラムが組まれていますから、それに則り生徒に早期から受講してもらう必要があります。しかし、当地では、標準的な私立校のみならず最難関とされる白陵中でさえ、受験間際の冬に初めて受験のための学習を行って合格した生徒もいます。そして、小6から学習を始めて白陵や淳心に合格する生徒は毎年のように存在します。また、公立一貫校の受験者は学習開始時期が遅い傾向にあり、小6から学習を開始するケースが最も多いのです。そして、学習開始時期と合否の相関はそれほど高くありません。お子様の学習能力・知識の蓄積の状況さらには入試までどれだけの期間が残っているかなどの条件につき、合格に至るストーリーを描くことを考えるべきです。是非、当塾担当者にご相談ください。

Q2：途中から入塾してついていけるでしょうか。

学習は、本来先に進むことが復習につながるようになっていきます。例えば、小6で比の学習を行うときには、既に学習した分数や割合の項目についての復習を行うことが前提になっています。そして、そのようなことを念頭において指導しますから、途中から参加しても抜けている知識は十分に補われます。

また、学習項目は大きく分けて、以下の二パターンに分類できます。

- ①具体的で画一的な作業の手順を身につけるべきもの
- ②抽象的で観念的な方略を身に着けるべきもの

簡単な例を挙げてみます。

①画一的なものの例：分数・小数の加減乗除の計算、平面図形の面積の求め方など

②観念的なものの例：和が62で、AがBの3倍より2小さい時、Aの値は・・・他、特殊算、図形など

①については、理解したり記憶したりする機会を何回か与えれば、たいていの生徒は問題なく以前から参加していた生徒達に伍してこなしていくことができます。しかし②については事情が異なります。学校の授業で取り扱うことが殆ど無く、初めて問題を見た時にできる生徒は非常に優秀な場合に限られます。ですから、そのようなことを想定して、入試当日まで新出事項の学習を進める一方で、小テストや季節講習時に、できにくいことに絞って、繰り返しとり上げて学習します。

(早くから始めてもそのようなことの習熟度が高まらない場合には、合格に至らないことになります。)

また、補習授業を随時、実施して抜けている箇所を補いますから、問題なく授業に馴染んでいくことができます。(追加費用は不要です。)

Q3：どんな先生が教えてくれますか。

当ゼミナールの中学受験コース担当者は、全員が長年受験指導に携わっている熟練教師です。ですから、

問題を解くことと解法を身に着けさせることを明確に弁別して、個々の生徒の習熟度を勘案した上で指導にあたります。実際、中学受験に対応する学習内容の指導は、生徒が余程優秀な場合と基礎の徹底確認を行う場合を除いて、知識や経験の乏しいアルバイト学生や保護者の手に余るのが実情です。学習内容と生徒の距離感を如何に埋めて理解と記憶をスムーズに行わせるか。どのような生徒が瞠目するべき学力向上を果たして合格していったか。そのようなことを念頭に置いて保護者の皆様と連絡もとりながら指導していきます。問題で教え教科で教えることをモットーとして、最終的には単一の教科についての得点力のみならず学習能力そのものを向上させることを目標にしています。ご期待ください。

#### Q4：中学受験の学習は非常にハードだと聞いていますが、授業でこなす内容や宿題は多いのでしょうか。

授業の進度はかなりゆっくりで、小6の10月半ばまでに小学校の内容を終えるようにカリキュラムを組んでいます。そして、選考までの3ヶ月～4ヶ月を入試対策期間としていますから、かなり余裕を持って学習します。毎回の授業で出す家庭での課題は、基本的に復習内容のみで、量的には1教科1時間以上かかることはありません。また、与えた課題については既習の内容であっても全てについて繰り返し解説を行います。ですから、当塾の中学受験部門に所属する生徒は、様々なお稽古事もこなしながらのびのび受験のための学習に取り組んで合格していく例も多いのです。授業の終了時刻も早いので、家庭での団らんの時間も睡眠時間も十分に取れるようになっていきます。このような中学受験専門の他塾とは一線を画する運営を行っていますが、これまで十分な進学実績を上げてきたと自負しています。なお、宿題以外の家庭学習としては、毎週送付する小テスト問題を添付したメール本文などを参考にしてください。

#### Q5：保護者は家庭でどのような役割を果たすべきでしょうか。保護者が家庭で教える必要がありますか。

生徒たちに学習能力を高めさせ、学習成果を上げさせるためには以下の二点が肝要です。

- ①基礎となる学習内容そのものの指導
- ②基本となる生活・学習習慣や環境整備等の指導

①については、Q3でも述べましたが、保護者が家庭で教えることにはかなり無理があります。家庭で確認して欲しいのは、お子様が、授業や小テストを通して学習した事柄を覚えているかどうか、覚えようとしているかどうかです。そのために、毎週保護者宛にメールでお知らせしたり、懇談や説明会で実情を伝えお願ひしたりしているわけです。そして、教室での指導は①がメインになりますが、②についてはどうしても限界があります。学習効果を上げようと思えばどうしても①に目が行きがちですが、保護者がその本来的な役割を果たせるのは②についてなのです。まず、子供の状況を正確に把握するために、カバンの中・ノート・日々のスケジュールなどを好ましいものにしていくように働きかけてください。保護者は、子供たちと毎日接しているながら、案外状況を把握できていないことが多いものです。場合によっては、毎週報告書を書かせて一週間の動きを報告させるのも有効でしょう。日々のスケジュールや学習習慣がきちんとしている場合に学力向上が果たされやすいことは当然です。②についての関与を増やし、間接的に学力向上に資する役目を果たしていただきたいと思います。宜しくお願ひします。

## Q6:分からないことについて質問すれば答えてもらえますか。

「分からないことがあっても、どんどん進んでしまうので質問するタイミングもなく、ついていけなくなってしまう。」という意見がたまに聞かれます。しかし、解説が一区切りした時に質問を促して、はっきり質問できる生徒は滅多にいません。そして、質問できる生徒はかなり優秀です。そのような事情を踏まえて、生徒が質問しなくても理解できないままで終わらせないように、逆に確認すべきことを発問するようにしています。発問内容は説明したばかりのことの復唱を求めたり、前回の授業や繰り返し説明してきたことの要点を答えさせたりすることで、問題に答えさせたりすることではありません。

例：○○くん、A が B の 5 倍いうたらどうということやった→和が B の 6 倍、差が B の 4 倍  
以上のような発問は小5から入試まで多い生徒は冗談ではなく、100回以上聞いているはずですよ。

また、授業の流れの中で、個々の生徒が思い付きの素っ頓狂な言葉を発するのはあまり好ましくありませんから、補習時や授業の開始前などに質問するように指導します。

(実際に質問してくる生徒は中学までは上位生に限られ、高校生以上でも多くはありません。)  
基本的に、生徒たちが自分の分からないことが何で、それを分かるようにできるような有効な質問ができれば理想的ですが、そのようになっていなくても問題ないように配慮して授業を進めます。  
ご安心ください。

## Q7：家庭への報告・連絡・相談はどのようになっていますか。

### (1)OK メール(全生徒対象)

当塾独自の通信方法で、ご登録いただいたアドレスに毎回の授業終了時に全生徒保護者にメールでの連絡を行います。その主な内容は以下の通りです。

①出欠・遅刻 ②科目毎小テスト得点 ③授業項目や宿題の概略 ④各種のお知らせ ⑤生徒特記事項 等

### (2)中学受験統括担当者よりの毎週末メール(希望者対象)

土曜特訓や季節講習時に実施する小テストは、授業時に10～15分程度で実施して、20分程度の解説を行います。しかし、生徒によってはそれだけでは習熟度が高まらず、再度の家庭での確認が欠かせない場合が多いものです。ですから、簡単な解説を添えた小テスト PDF と保護者に確認させて欲しい事柄をメール本文に記して送信します。また、保護者よりの様々なご相談については、そのメールにご連絡いただく事で、24時間以内に返信・回答させていただきます。(デリケートな内容については、面談や架電にて対応します。)

### (3)受験事情や学習成果を出すための保護者会や懇談

配布する受験までの年間予定表をご覧ください。

(4)授業担当者が授業を行っていく過程で、向上のために改善が必要で、しかも家庭の理解と協力が欠かせない判断した場合は電話やメールでその旨を連絡し、ご相談の機会を設定します。

## Q8：授業に欠席したり、理解できなかつたりすることがあれば、どのような対応をしてもらえますか。

授業は模擬試験のスケジュールや出題範囲に合わせて進めていきます。しかし、理解したり記憶したりする機会を十分に確保していても通常授業のみで、全員が要求される水準に達することは難しいものです。そのようなことを踏まえ、既習項目についての補習を、対面や ZOOM で繰り返し行っていきます。2021年

## 岡村ゼミナール中学受験コース Q&A

度の受験学年については、5月の連休明け以降から対面と ZOOM でほぼ毎週補習を実施する予定です。また、非受験学年についても、学校の行事を始めとする様々な事情での休校などを想定して、普段から補習授業を実施しています。詳細については塾生向け月間予定表を毎月配布しますから、そちらで確認してください。

### Q9：受講に際して、どのような費用がかかりますか。

毎月の授業料以外にかかる費用としましては、教材費・模試代・施設費を前期と後期に分けて納入していただきます。その他、学校が休みになる期間には授業時間数を増やして総復習のための特別講習を行いますから、授業時間数の増加に伴う費用がプラスになります。詳細は入塾時にお渡しする明細にてご確認ください。また、小6生対象のオプション講座として、入試直前に実施する日曜講座や合宿を設定しています。これに参加されるときは追加費用が発生します。

なお、定期的に予定を組んで実施する補習授業の費用は一切かかりません。中学受験指導を行う学習塾費用としてはかなり割安な設定になっています。

### Q10：入塾に際しての手続きなどについて教えてください。

電話やメールでのお問い合わせに際して、集団での説明会または個別で、

- ①運営のシステムや指導方針についてご説明します。
- ②お子様に入塾前テストを受けていただきます。テスト内容は、通塾が未経験という前提の内容で、中学入試レベルより難易度は低くしてあります。(基準は6割程度)
- ③テスト結果をご報告、結果についての簡単な説明と授業方針についてご確認いただき増す。
- ④入塾契約書・初回費用のお振込み・費用納入のための自動引き用紙・誓約書の四点が確認できた段階で入塾が確定いたします。

※Q & A に無いことで、お尋ねになりたいことがあれば、何なりとメールまたはお電話でお問い合わせください。受験指導責任者がお答えいたします。

お問い合わせ先

TEL：フリーダイヤル 0120-195541 岡村ゼミナール事務局

Mail：[info@oksemi.co.jp](mailto:info@oksemi.co.jp)